

第11回 理事会

日 時：令和5年2月21日(火) 9:30~12:30

場 所：学会事務局(Web会議併用)

出席者：長田会長(議長)、清水副会長、北田副会長、末永常務理事、池見、稲垣、太田、小俣、笠、佐々木、竹村、西山、長谷川(淳)、長谷川(信)、平野、船山、升元、村上、和田各理事、野村、緒方各監事

欠席者：大谷、大津、徳永、林、三田村、三好各理事
(理事25名中19名出席(過半数)により理事会は成立)

陪席者：熊谷(事務局)

議事内容：

1. 前回議事録の確認

- ・令和5年1月17日開催の令和4年度第10回理事会の議事録案について、承認した。

2. 審議事項

1) 会員状況の確認

- ・事務局長より4月1日からの入会の希望者について説明があり、正会員5名、学生会員1名、定期購読会員2者の入会を承認した。
- ・事務局長より2月21日時点における会員状況について説明があり、正会員1,825名、学生会員50名、名誉会員65名となり、総数は1,940名であることを確認した。

2) 土土地質研究部会長、副研究部会長の選任について

- ・常務理事より説明があり、審議の結果、土土地質研究部会長を片山政弘委員とすることを承認した。また、副研究部会長として綿谷博之委員と宇田川義夫委員が選任されたことを確認した。

3) ダイバーシティ委員会(仮称)の名称決定と常置委員会への改組に伴う規則・規程類の改定について

- ・常務理事より説明があり、審議の結果、来年度から常置委員会に改組されるダイバーシティ委員会(仮称)の正式名称を「ダイバーシティ推進委員会」とすること、これに伴い修正の必要のある規則、規程類を改定すること、今年度末のダイバーシティ推進特別委員会の解散とダイバーシティ推進特別委員会運営規程の廃止について承認した。
- ・ダイバーシティ推進委員会運営規程については、引き続きダイバーシティ推進特別委員会において検討を行った後、次回理事会において審議することとなった。

4) 委員の新任について

- ・国際委員会の1名の委員の新任について承認した。

5) 本部主催の研究発表会開催に向けた準備会の設立について

- ・清水副会長より説明があり、審議の結果、研究発表会そのものではなく、支部の再編も視野に入れた会

員サービスの改善に向けた検討を行う準備会の設立に向け、引き続き検討を行うこととなった。

- ・過去に議論に上がっていた北陸支部も含め、現在支部に所属していない9都県の支部への参入も検討しても良いのではないかと意見や、既に関東支部が存在する他学会の動向を見ると、本部の会員が兼務するなど負担が大きくなるといった意見、2028年の本学会70周年事業のタイミングに合わせて関東甲信で研究発表会を開催する場合には、3年後の2026年には準備を開始する必要があるといった意見が出された。

3. 本部からの報告事項

1) 収支状況

- ・事務局長より、標記の説明がなされた。令和5年1月の収支について、概ね例年通りの状況であることが確認された。
- ・事務局長より、1月の理事会での報告後に更新された来年度予算案の説明があった。また、令和4年度先端技術ワークショップの収支報告がなされた。

2) 令和4年度名簿・事業報告案・アクションプラン2021-2022総括について

- ・末永常務理事より、標記の説明がなされた。アクションプラン2021-2022総括を踏まえ、次回理事会までにアクションプラン2023-2024を策定していくことを確認した。
- ・アクションプランの位置づけについて議論を行った。その結果、IAEGが2016年に示した「IAEG Strategy Statements」を参照し、IAEGビジョンや目標を取り込む形でアクションプランを修正することとなった。特にIAEGの目標6に掲げられている基準作りについては、地質情報の評価や考え方など、本学会に盛り込むことのできる内容を検討していくこととなった。

- ・将来構想検討特別委員会において2021年3月に本学会の「マスタープラン」が提案されており、これをブラッシュアップする形で基本方針をアクションプランに盛り込むことを検討することとなった。

3) 令和5年度「応用地質」巻頭言執筆者について

- ・常務理事より、来年度「応用地質」の巻頭言執筆者が報告された。

4) 令和4年度フォトコンテスト結果について

- ・担当理事より説明があり、「応用地質」2月号報告記事を確認した。受賞作品は、今後学会誌の表紙等に利用されとのことであった。

5) 令和5年度シンポジウムについて

- ・担当理事より関連した収支シミュレーションについて説明があった。

- ・シンポジウムのテーマが「ダイバーシティ」であり、参加費の無料化について議論を行った。その結果、シンポジウムの具体的な内容について次回理事会までに示した上で、改めて審議することとなった。無料化により会員だけでなく非会員の方々の参加も促すという目的があるのであれば、学会全体のダイバーシティへの取り組みや意識向上に資する等の理由を示すべきであるとの意見があった。
 - ・「学問領域のダイバーシティ」をテーマにすることにより、ある程度の集客が見込まれるのではないかと意見がある一方で、他学会等から招待する場合には話題が合わなくなるのではないかと意見も出された。
- 6) 令和5年度研究発表会準備状況について
- ・担当理事より説明がなされ、特別セッションは現在エントリーが1件であり、3月9日の締め切りまでに提案を頂きたい旨、案内があった。
- 7) 若手研究発表会アンケート結果について
- ・担当理事より説明がなされ、「開催してほしい」との意見が半数以上あったことから、開催する方向で検討を進めるとのことであった。
 - ・和田理事から、研究発表会で実施予定のアース・サロンとのコラボレーションについて検討していきたい旨、意見表明があった。
- 8) 内閣府「日本学術会議の在り方についての政府方針」に対する日本学術会議の声明への対応について
- ・常務理事より説明がなされ、本学会は所属団体である日本地球惑星科学連合の声明を当面踏襲し、必要に応じて学会独自の声明を検討することを確認した。
- 9) 地球・資源分野JABEE 委員会今年度計画・予算について
- ・清水副会長より説明がなされ、今年度活動計画、予算、改定された運営規則について確認した。
- 10) 防災学術連携体シンポジウムについて
- ・常務理事より説明がなされ、また、稲垣理事よりシンポジウムにおける本学会代表としての発表内容について補足説明があった。
- 11) 日本ジオパーク委員会審査結果について
- ・清水副会長より説明がなされ、5つのジオパークに関する4年間の活動に対する評価結果を確認した。
- 12) 他学協会からの依頼について
- ・常務理事より、公益財団法人国土地理協会から「学術研究助成事業」、ならびに深田地質研究所野外調査助成について説明があった。内容を確認し、ホームページ・ニューズリストで広報することとなった。
 - ・「学術研究助成事業」については、災害地質研究会で応募を検討していることが紹介された。
4. 各委員会・支部・研究部会・小委員会からの報告事項
- 1) 総務委員会
- ・2月20日開催の委員会議事録案が提出された。
- 2) 事業企画委員会
- ・2月15日開催の委員会議事録案が提出された。
 - ・担当理事より、令和5年度地質の日のイベントが5月14日(日)に横浜で開催されることが紹介された。
- 3) 研究企画委員会
- ・担当理事より2月9日に開催された先端技術ワークショップの報告があった。参加者約140名で、アンケートの結果からもおおむね好評であった。詳細は後日学会誌に記事を掲載する予定である。
- 4) ダイバーシティ推進特別委員会
- ・2月14日開催の委員会議事録案が提出された。
 - ・担当理事より、議事内容の紹介があった。
5. その他
- ・学会の委員会等予定を記載するGoogleカレンダーのURLを理事・監事および組織の長に共有することとなった。
 - ・会長から、トルコで発生した地震に関連して、学会として取り組めることがあれば知らせてほしい旨、要請があった。